

新アリーナの公設民営に向けた提言

2022年12月1日 【要約版】

岡山商工会議所 会頭 松田 久
新アリーナ整備検討チーム

岡山県経済団体連絡協議会、岡山商工会議所、岡山シーガルズ、トライフープ岡山、岡山リベッツ、ファジアーノ岡山

アリーナのコンセプト

①市民を魅了するスポーツの機会創出

高規格で利便性の高いアリーナの建設による競合の緩和とイベント増加

②シビックプライドの醸成

魅せるアリーナの創造による他施設との差別化

③子どもや女性、全ての人々が輝くアリーナ

トップアスリートや女性が輝き、次世代アスリートが育つ施設

④市民の健康と安全・安心に繋がる施設

地域の公共財として市民の健康増進や避難場所としての活用

⑤健康寿命の延伸に向けた産業の創造

DX機能の導入による施設運営の合理化と運動・健康事業への応用

⑥新アリーナによる地域活性化

スマートベニューの発想に基づきエリア全体のまちづくりにつながる施設

新アリーナの運営

- ① 公設民営による運営で、「稼ぐアリーナを実現」
- ② 稼ぐことにより指定管理料が不要な指定管理を目指す。
- ③ 運営の主体は、プロスポーツチームのほか、県内企業連合体、大企業などから選定する。
- ④ 運用の優先度

地域の公共財として健康・交流・避難場所としての活用

トップチーム
コンテンツ



他のスポーツコ
ンテンツ



エンターテイン
メントコンテンツ

運営に必要な経費

152,900,000円

支出項目	支出金額	単価
維持管理費	39,600千円	3,600円㎡/年
運営費（人件費）	52,800千円	4,800円㎡/年
その他経費	22,000千円	2,000円㎡/年
水光熱費	38,500千円	3,500円㎡/年
合計	152,900千円	



想定される運用収入

154,500,000円

①プロスポーツチームの利用による収入	66,000千円
②練習およびスポーツ教室等への貸出	10,500千円
③その他の施設利用収入および間接的収入	28,000千円
④アリーナ興行（スポーツ事業以外の活用）	40,000千円
⑤その他の収益事業	10,000千円
合計	154,500千円

寄附金の募集

- ①寄附金の募集
主に市内の企業や個人に向かって募集
- ②企業版ふるさと納税の活用
市外の企業に建設資金を募集する際に有効性の高いこの制度を活用し、経済団体から呼び掛けを行う。
- ③ふるさと納税
市外の個人に対して納税を呼び掛ける。

寄附金の目標額 **8億円**

新アリーナの公設民営に向けた提言

令和4年12月1日

岡山商工会議所
会頭 松田 久

新アリーナ整備検討チーム

岡山県経済団体連絡協議会

岡山商工会議所

岡山シーガルズ

トライフープ岡山

岡山リベッツ

ファジアーノ岡山

【 今までの経緯 】

(1) 「アリーナ建設に向けた提言書」(令和3年12月27日)

岡山県経済団体連絡協議会ならびに岡山商工会議所は、岡山のプロスポーツチームが直面している慢性的な試合・練習会場の不足に憂慮し、次の2点について岡山市長、岡山市議会議長に提言を行った。

- ①岡山市北区北長瀬の「北長瀬みずほ住座」跡地に、観客席3千人～5千人規模のメインアリーナを有し、サブアリーナなど付帯施設を完備したアリーナを建設する。
- ②アリーナの建設・運営において、経済界等が推進する寄附金や企業版ふるさと納税による資金を建設費に組み入れた「公設」と、指定管理者制度およびPPP制度の利点を考慮した民間事業者のノウハウによる「民営」の仕組みを導入する。

(2) 「多目的屋内施設(アリーナ)に関する基礎調査」の実施

岡山市は、(1)の提言を受けて令和4年度事業として「多目的屋内施設(アリーナ)に関する基礎調査」(以下「基礎調査」という)を実施し、「ニーズ調査の結果、既存のアリーナだけでは量的に不足していることは明らかであり、都市機能が一定程度集積した利便性が高い地域への新アリーナの整備が必要」との結果となった。

その規模については、観客席5,000席(可動席含む)、延床面積が1万1千㎡クラスの施設が望ましいとし、新アリーナによる経済波及効果は、県内外からの来場者による消費活動により20年間で770億円以上との試算結果が出ている。また、運営面での独立採算の実現は、新アリーナをエンターテインメント性の高い施設とし、スポーツ以外のイベント興行等の事業展開が必要との結果となっている。

(3) 「新アリーナ整備検討チーム」の組成

岡山県経済団体連絡協議会および岡山商工会議所は、(1)の提言を実施した後に、アリーナを利用するプロスポーツチーム(岡山シーガルズ、トライフープ岡山、岡山リベッツ、ファジアーノ岡山)とともに、「新アリーナ整備検討チーム」を組成した。検討チームでは、新アリーナに必要な各プロリーグの仕様に関する情報や、想定される試合数などの情報を持ち寄り、理想的なアリーナの規模の想定を行った。また、基礎調査が公表された後は、各チームの使用の頻度や日程の調整について情報を交換したほか、運営の母体の検討やプロチーム以外のアリーナの活用について協議し、独立採算の可能性を検討してきた。

さらに、建設費の一部を民間から集める方法として、企業に向けては建設寄附金や企業版ふるさと納税、また市民については寄附金およびふるさと納税についての研究を深め、アリーナ建設機運の醸成とともに、多くの資金の提供を呼び掛けることを検討している。

今回の提言は、以上のような経緯を踏まえ、政令市岡山にとって理想的なアリーナの運営について提言する。

新アリーナの公設民営に向けた提言

1. 新アリーナのコンセプト

① 市民を魅了するスポーツの機会創出

～高規格で利便性の高いアリーナの建設による競合の緩和とイベント増加～

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、スポーツ熱の高まりを受けて全国各地でスポーツ施設の建設が進められている。特にインドアのプロスポーツチームが活躍している地域では、そのチームの発展や地域の一層の盛り上がりに向けてアリーナの建設が多数進められている。

一方、岡山市の基礎調査では、岡山市内の既存の体育館・アリーナはプロスポーツチームやスポーツ団体からのニーズに対して量的に不足しているとの結果となった。入場料収入を財源としているプロチームとしては集客に優れたジップアリーナの確保が課題であり、公共施設のために優先利用が難しい状況にある。

交通アクセスに優れ、都市機能が一定程度集積した利便性の高い地域へ新しいアリーナを建設し、ジップアリーナほか市内の施設への集中を緩和することで、プロ・アマ問わず利用希望者の利便性を強化する。

② シビックプライドの醸成

～魅せるアリーナの創造による他施設との差別化～

アリーナを交通の利便性が良いまちなかに建設することで、アクセスは格段に良くなるほか、全天候型のアリーナは様々なスポーツやイベントの開催に有利な面があり、照明や音響、DX機能を駆使することにより魅力的なアトラクションの開催も実現できる。「魅せる」を主眼としたアリーナを創造することで、既存のアリーナとの差別化を行うことに力点を置く。これにより、トップスポーツチーム4チームがトップレベルのスポーツ興行を行う全国的にも稀有な「魅せる」アリーナがあることに対し、市民は自らのまちに誇りを持つ、すなわちシビックプライドを醸成することが期待できる。

現時点で、岡山市には岡山シーガルズ(V1)、トライフープ岡山(B3)、岡山リベッツ(T1)、ファジアーノ岡山(J2)などのプロチームがあり、これらのプロチームが同一のアリーナを活用すれば、これは全国でも画期的なことであり、アリーナの運営を行う上でも大きなアドバンテージとなる。言わずもがな、プロチームのゲームは交流人口を増大させ、経済効果を生むほか、岡山市民は週末毎に「スポーツ観戦で盛り上がる日常」を手に入れることができる。シビックプライドにつながるようにプロアスリートは「魅せる」プレーを繰り広げ、「魅せる」アリーナは最大限の演出を行う。

アリーナ運営のためには他のスポーツイベント、音楽イベント、コンベンションなど多彩な事業の展開が必須だが、これもまた同様で、「魅せる」アリーナの力量を発揮する必要がある。

③ 子どもや女性、全ての人々が輝くアリーナ

～トップアスリートや女性が輝き、次世代アスリートが育つ施設～

日々鍛錬に明け暮れ、勝利のために持てるすべてのパフォーマンスを発揮するプロアスリートの姿は、アリーナでは多くの人々に感動を呼び起こす。前述のプロ3チームは、ともにシーズンが秋から春となり、日程の調整が難しいことが予測されるが、リーグとの調整やチーム間での調整を行い、常に最大限の新アリーナ利用を目指す。

また、ファジアーノ岡山を加え各プロリーグともに若い年代への育成は必須であり、いずれのチームも下部組織や若年層への指導を行っているが、その育成の場として、また、力試しの場としてアリーナを活用し、次世代のトップアスリートの育成を行う。

岡山シーガルズやママさんバレーボールをはじめ、天満屋女子陸上部の活躍や岡山マラソンに参加する女性ランナーへの拡大、県出身の女子プロゴルファーの活躍など女性アスリートの活躍が際立っている。「女性に優しく、女性が輝く」視点に重きを置きアリーナ施設の内容を検討する。

④ 市民の健康と安全・安心に繋がる施設

～地域の公共財として市民の健康増進や避難場所としての活用～

北長瀬未来ふれあい総合公園の隣接地にアリーナを建設することにより、この地域のコンセプトをより明確にするとともに、ユニバーサルデザインによる施設整備を行うことで誰もが使いやすい施設を目指し、女性、高齢者、障害者が利用できる交流拠点としての施設とする。

市民自身の肉体年齢への気づきや体力に応じたスポーツへの参加を通し、健康寿命延伸に一層取り組むとともに、健康経営の取り組みを通して地域の経済活動を活性化させる。また、市民間のさまざまな交流や連携事業を通じて、元気で豊かな生活を実現する拠点づくりを行う。

アリーナは地震や水害の発生時に罹災者の緊急避難所となるほか、救急救命の拠点として、また、支援物資の備蓄・分配の拠点としての機能を発揮する。

⑤ 健康寿命の延伸に向けた産業の創造

～DX機能の導入による施設運営の合理化と運動・健康事業への応用～

新アリーナにはDX機能を充実させ、電子チケット、アプリでの座席案内、キャッシュレス化など観戦客の利便性や施設運営の効率化を図るほか、ゲームをより楽しむための大型モニターなどの各種電子機器を装備し、「魅せる」アリーナに対する設備投資を行う。

市内の大学が有するスポーツ医科学に基づく知見によって、最先端DX機器でトップアスリートや市民の身体データを測定し、トップアスリートの一層の運動能力の向上や市民の健康づくりに向けて分析を行うほか、市民から得たビッグデータを基に効果的なトレーニングを実践し、健康寿命の延伸へ繋がる取り組みを行う。

また、蓄積されたデータを元に、運動機能を補助するサポーターの開発やスポーツ

ウェア、サプリメント等の開発に向けたイノベーションラボを創設し、新たな産業を興すとともに、スタートアップ企業の育成拠点を設ける。

⑥ 新アリーナによる地域活性化

～スマートベニューの発想に基づきエリア全体のまちづくりにつながる施設～

スポーツイベントだけの運営では収支の一致は難しく、アリーナの興行としてアーバンスポーツ、eスポーツ、音楽イベント、コンベンション、展示会・見本市会場のほか、成人式など市民参加型のイベントに活用し、運営費用を稼ぎ出していく。のみならず、新アリーナの立地は、「庭園都市」の新たなシンボルとしての整備が進む「北長瀬未来ふれあい総合公園」に隣接しており、アリーナの持つ集客力との相乗効果によって人が訪れ、交流に繋がる空間づくりに一層の効果が期待できる。

また、アリーナによって生まれる人流の増加は、この一帯の賑わいを創出する「ブランチ岡山北長瀬」や、近年、若者が集まり賑やかさを増す「問屋町」との相乗効果が期待できることから、エリア全体のマネジメントを構築し、ハードとソフトを連動させて最大限の効果を導き出す仕組みを創造する。

2. 新アリーナ運営方法、主体、収支について

(1) 公設民営による運営について

公設により整備されたアリーナを、民間が有するノウハウを最大限活用することによって、「稼ぐアリーナ」として運営する。その目指すところは、「独立採算」であり、管理料が不要な指定管理を理想とする。運営を担当するのは、既存の法人・団体、あるいは運営のための特別目的会社（SPC）や有限責任組合（LLP）などの事業体が考えられる。

この事業体には、地元スポーツ団体のほかに、県内企業の連合体、大企業などが想定されるが、アリーナの特性やアリーナを活用した事業に適した運営組織を選定する必要がある。

基礎調査によると独立採算の実現可能性は、質の高いスポーツコンテンツは勿論のこと、それ以外に①新アリーナをエンターテインメント性の高い魅力的なものとし、②スポーツ以外のイベント興行の事業展開を図ることで可能になるとしている。スポーツをメインにする新アリーナにとって本末転倒とまらない範囲で、音楽イベント、興行、コンベンションなどアリーナの最大活用、最大収益を追求する。

ただし、地域の公共財として建設される新アリーナであることを忘れてはならず、地域社会にとって有用な健康・交流・避難場所としての活用も運用の土台に据える。

地域の公共財として健康・交流・避難場所としての活用

トップチーム
コンテンツ



他のスポーツ
コンテンツ



エンターテインメント
コンテンツ

(2) 運営に係る経費

基礎調査の結果、運営に必要な経費は年額で1億5千3百万円程度が必要になると試算されている。

支出項目	支出金額 (千円)	単価
維持管理費	39,600	3,600 円 m ² /年
運営費 (人件費)	52,800	4,800 円 m ² /年
その他経費 (リース費用等)	22,000	2,000 円 m ² /年
水光熱費	38,500	3,500 円 m ² /年
合計	152,900/年	

※岡山市多目的屋内施設 (アリーナ) に関する基礎調査より抜粋

※維持管理費には、保守点検等管理費、警備費、小規模修繕費、清掃費等を含む (大規模修繕費は含まない)

(3) 想定される新アリーナの収入

運営に係る収入についてはアリーナの詳細が決まっていない現時点では正確な数字をはじき出すことは困難だが、いろいろな収入を積み上げると総額は次のような数字となる。

①プロスポーツチームの利用による収入	66,000 千円
②練習およびスポーツ教室等への貸出	10,500 千円
③その他の施設利用収入および間接的収入	28,000 千円
④アリーナ興行 (スポーツ事業以外の活用)	40,000 千円
⑤その他の収益事業	10,000 千円
合 計	154,500 千円

詳細については次のとおり。

① プロスポーツチームの利用による収入

66,000 千円

全国に多くのアリーナが存在し、また計画をされているが、複数のプロスポーツチームが共同で利用するアリーナは全国でも極少数であり、このメリットを最大限活用するためにリーグやチームで協調を図り、最大値のゲーム実施を図ることでアリーナとしての安定収入を確保する。

チーム名	試合数	リーグ規定	他会場開催	その他使用	合計数	利用料 (千円)
岡山シーガルズ	20		▲4	4	20	20,000
トライフープ岡山	30		▲6	12	36	36,000
岡山リベッツ	12		▲3	1	10	10,000
合計	59		▲16	7	50	66,000

② 練習およびスポーツ教室等への貸出（サブアリーナを含む）

10,500千円

確たる練習場を有しない岡山シーガルズの練習会場としてアリーナを使用するほか、中高生や海外チームの合宿などの受け入れのためにコート利用を行う。また、各チームが行うスポーツ教室として活用するほか、ママさんバレーボールの教室も実施する。フットサルやバレーボール、卓球などの競技はアマチュア愛好家の方が多く、平日夜間の利用を希望する声もあるため、夜間の貸出を考慮する。また、中高生、大学生にとってプロ仕様の会場で試合をすることは「夢舞台」となり、県大会の準決勝、決勝戦を（スポンサー付きで）このアリーナで行えば、利用の回数は増える。

チーム名	貸出日数	利用内容	利用日数	利用料（千円）
岡山シーガルズ		練習・教室	100	3,000
		中高生合宿受入	30	3,000
		海外チーム受入	15	1,000
トライフープ岡山		教室	24	500
岡山リベッツ		教室	24	500
ファジアーノ岡山		フットサル教室	12	250
ママさんバレー		教室	50	500
夜間貸出利用		練習・試合	50	1,250
県大会		試合	5	500
合計		—	322	10,500

③ その他の施設利用収入および間接的収入

28,000千円

アリーナ内に有料の貸室及び貸会議室スペースを設けることで、プロチームのクラブハウスとしての家賃収入、個々人の身体データに関するラボ等の研究施設に対する家賃収入を実現するほか、貸会議室の賃貸料と機材のレンタル料の収入を想定する。また、付帯する駐車場（想定50台分）の使用料やアリーナのネーミングライツとしての収入を計上する。

種別	貸出内容	利用内容	単価	利用料（千円）
貸室		面積 330 m ² （100 坪）	坪単価 10,000 円	12,000
貸会議室		面積 165 m ² （50 坪）	1 日 1 万円 x 5 割稼働	2,000
駐車料金		50 台 x 稼働 200 日	@500	5,000
ネーミングライツ		1 年間の権利料	8,000	8,000
自販機手数料等			手数料単価 20 円	1,000
合計		—	—	28,000

④ アリーナ興行（スポーツ事業以外の活用）

40,000 千円

プロスポーツチームの公式試合は、大半が秋から春にかけての開催で集中している。また、大半が週末に集中する。春先から夏にかけてのシーズンオフの期間の週末と平日を想定したイベントを実施する。アリーナの利用として考えられるのは、次のような内容。

基礎調査では、年間 32 日以上で開催を行うことで黒字に転換されるとしており、独立採算を維持するためには収益性の高い事業実施に取り組む。

アイスショー	アリーナ内にスケートリンクをつくり、ショーを開催（リンク製作に 1 週間、1 千万円）
アーバンスポーツ	アリーナ内にコースを設定し、BMX やスケートボードなどのアーバン競技を開催
e スポーツ大会	アリーナの大型モニターを活用し、コンピュータ及びビデオゲームの対戦型大会を開催する
音楽イベント	2 千人以上の観客を想定した大物ミュージシャンによるアリーナコンサート実施する。
コンベンション	医療系の学会や各種団体の全国大会を開催するコンベンション施設として活用
展示会・見本市会場	販売促進のための展示会や、新作等の発表の場としての展示会に活用
その他	成人式や子どもフェスティバルなど市民参加型のイベント等に活用するほか、アリーナの活用希望者への貸し出し。

⑤ その他の収益事業

10,000 千円

地域の公共財としての活用の観点から、「北長瀬未来ふれあい総合公園」のコンセプトの「ライフスタイルに合わせた健康支援」を積極的に推進する事業を行い、アリーナを舞台に年齢層や個々人の体力を考慮に入れた健康増進プログラムを提供し、地域の健康支援を行う。

また、トップアスリートや年代別の個々人の運動データを記録し、データを活用することで運動能力の向上、健康増進に向けた製品の開発につなげるほか、オープンイノベーションラボの開設を通して、スタートアップ企業の支援を行う。

市民の健康増進に向けた事業（補助事業として）
測定および健康増進（参考：阿蘇ファームランド）
オープンイノベーションラボの開設
近隣のジムとの連携事業
アリーナ北側への広告の掲示

3. アリーナの設備について

市民は週末毎に繰り広げられるプロスポーツ観戦に相当の費用を負担し、レプリカユニホームをまとい会場に押し寄せる。そのため、プロスポーツチームのホームゲームを行う会場としては、「魅せる」プレーを間近に感じ、照明で際立った選手の躍動に万感の歓声を送るため、通常の体育館の設備を超えた最新の機器が必須となる。大型のスクリーンに映るリプレイ映像に盛り上がり、ハーフタイムには光と音楽のショーを繰り広げるための設備、また、音楽イベントやコンベンションを効果的に演出するための設備など、「見る・する・支える」を高い次元で実現できるような設備とすることが重要と考える。

【必要な設備】

- サブアリーナ（バレーボールコート1面、バスケットボールコート1面）
- 常設の観客席とプレーエリアを拡大縮小できる可動席（可能なら5千席）
- 車両から、直接、搬入・撤収が可能となる搬入口の設置
- 最新の映像機器や音響設備
- トレーニングルーム・トレーニング機器
- 各プロリーグのレギュレーションにマッチした会場設備への対応
- V I Pルーム、ラウンジ
- フレキシブルに対応可能な設備（コート分割、トイレ男女比など）
- 有事の際の避難所を含む防災拠点としての活用
- 高速通信設備

【可能であれば設置を希望】

- 宿泊施設（合宿受け入れ・国際交流）
- イノベーションラボ（D Xアリーナによる民間投資等の呼び込み）
- スタートアップ企業ルーム

4. 建設に向けた民間資金について

① 寄附金の募集

岡山県経済団体連絡協議会および岡山商工会議所の経済界、プロスポーツチーム、寄附金の申し込み先となる岡山市が一体となり寄附金募集の推進委員会を組成し、県内外の企業、個人に向けた建設寄附金の募集を実施する。

呼びかけは、経済団体は所属する会員企業に向けて寄附の依頼を行うほか、プロチームは自らのスポンサー企業およびサポートする個人に対して行う。

申し込みにあたっては、WEBでの申し込みをできる体制を整えるなど幅広く周知し、効率的な募金を実施する。

② 企業版ふるさと納税の活用

市外の企業については建設資金を募集する際に有効性の高い「企業版ふるさと納税」を活用する。市外の企業に対しては、経済団体を通じて呼びかけを行うとともに、各地にある県人会組織や岡山県に進出している大手企業に対して積極的に呼びかけを行う。

税金の控除により実負担額の10倍の支援につながることから、地域貢献を経営上の課題に位置付ける企業にとっては非常に効果的な制度であり、アリーナ内に寄附をした会社名が一覧で表示されることは、企業のイメージアップにつながる。

ただし、留意すべきは「選ばれる納税先」になることであり、納税先に選ばれるためには大企業の関心の高い「SDGs」「ゼロカーボン」「女性に優しい」「健康増進」「DX」などの旗印を鮮明にし、他の納税先との差別化を行う必要がある。

③ ふるさと納税

市外に居住する人が、このアリーナに賛同し「ふるさと納税」を行うことも可能となる。この場合、「企業版ふるさと納税」とは異なり、返礼品を用意する必要があり、アリーナ内部の芳名板の掲示やチーム関連グッズの提供が必要となる。

④ 寄附金の目標額

寄附金の目標額は、8億円とする。

令和4年12月1日

- ① 岡山市長 大 森 雅 夫 様
- ② 岡山市議会議長 和 氣 健 様

岡 山 商 工 会 議 所
会 頭 松 田 久

新アリーナ整備検討チーム

岡山県経済団体連絡協議会
岡山商工会議所
岡山シーガルズ
トライフープ岡山
岡山リベッツ
ファジアーノ岡山